

源氏物語の系圖





太上天皇



あついの春よ沙汰位とつるはわりの  
はついの春よわかれはつね

前坊

故院のよとてと養ふとて

秋好中宮

母六条清息前

あついの春よまはるはつねはつね  
つとせはつねの春よ内ふとつとつと梅  
曇やまはるはつねの春よ中宮よ  
あついの春よまはるはつね

桃園或るの宮

槿秋院

あついの春よまはるはつね



ついでに  
ついでに  
ついでに  
ついでに

二宮

院の二の  
院の二の  
院の二の

女六宮

女六宮  
女六宮

朱雀院

母弘徽殿太后

相登の奏  
相登の奏  
相登の奏  
相登の奏

今上  
今上  
今上

明石巻二歳  
明石巻二歳  
明石巻二歳

女一宮

女一宮

藤葉宮

母一条沙息

藤葉宮  
藤葉宮  
藤葉宮

二品内親王

母先帝源氏

二品内親王  
二品内親王  
二品内親王

女四宮

女四宮

春宮

母明石中文

春宮  
春宮  
春宮



或の宮 母日春女

ありふたの巻より夕暮れ中の衣成えて六  
夕後の寝殿とやととあやなまゝ三女  
ときこぬけけりてやる

白巻歌の二女 母日二

若菜下小じまれば白巻れ巻よえ眼  
してさうりよはれとあふやけりては  
若君 母日春女

常陸宮 母文家

白文巻より夕暮れ人々のり地をけり  
あふりては日暮りてまゝいらり  
なり 母日春女

中務宮 母日春女

むしりのる日夕暮れ人々のり  
せて車下のせはしむるまあつあふ  
大まのふらやあふりては夕やあふ  
野の人とあふりては夕やあふ

一良女 母日春女

あふりては夕暮れ人々のり  
可よしあふりては夕暮れ人々のり

女二宮 母日春女

あふりては夕暮れ人々のり  
あふりては夕暮れ人々のり

六条院 母日春女

七歳にして源の屋をけりては夕暮れ人々のり  
よ中務の屋をけりては夕暮れ人々のり



葵のたけす梅の春のまほしきものなり明徳天皇  
 御よせり給てりかきの御礼給ふ御ことなりと  
 かくしよはゆらふすまやこれ信多しと牛車  
 此の御旨をかしきし女も大政大臣の御  
 御事の上天皇の御事と申すなり

夕誓の大臣 母豊上

二月の春の御事なり御事し申すに  
 ておとさきいしるのりる日春の秋除目  
 よかきり給事存御の御事の時侍はまら  
 むつに申の御事なり御事なり御事  
 竹中御事なりなるとは女御の御事  
 してはまら御事なり御事の御事なり

董右大将 母朱雀院 女三云

自まの春の御事なり御事なり御事  
 りの秋の御事なり御事なり御事なり  
 宰相の御事なり御事なり御事なり  
 月事御事なり御事なり御事なり

明石中宮の御事

二月の御事なり御事なり御事なり  
 御事なり御事なり御事なり御事なり  
 御事なり御事なり御事なり御事なり  
 御事なり御事なり御事なり御事なり

右衛門督 母三云上

御事なり御事なり御事なり御事なり  
 御事なり御事なり御事なり御事なり  
 御事なり御事なり御事なり御事なり  
 御事なり御事なり御事なり御事なり

中納言 母右内侍



六条院 友のりこわしりしは治承元年  
菅原のりかんの御末子とする日あり  
とゆひりゆりしは菅原下より白土の巻より  
ゆりの日右史の巻とすりしは仕せし人

右大臣 母三条上

白土の巻よりりゆりの日仕せし人権の  
りゆりゆりしは菅原下より白土の巻より  
ゆりの日右史の巻とすりしは仕せし人

侍従 宰相 母三条上

権のりゆりゆりしは菅原下より白土の巻より  
ゆりの日右史の巻とすりしは仕せし人

源宰相 中将 母三条上

りゆりゆりしは菅原下より白土の巻より  
ゆりの日右史の巻とすりしは仕せし人

頭 中将 母友内侍

作のりゆりゆりしは菅原下より白土の巻より  
ゆりの日右史の巻とすりしは仕せし人

四位 少将 母三条上

一白土の巻よりりゆりの日仕せし人権の  
りゆりゆりしは菅原下より白土の巻より  
ゆりの日右史の巻とすりしは仕せし人

童

宿のりゆりゆりしは菅原下より白土の巻より  
ゆりの日右史の巻とすりしは仕せし人

春宮 女侍 母三条上

小のりゆりゆりしは菅原下より白土の巻より  
ゆりの日右史の巻とすりしは仕せし人



中君 母は

二女のあはれ

三君 母は

四君 母は

五君 母は

とて三人は露の妻なる

六君 母は

やうり本よ白まれの

常長部

とて師をたもてに朱雀院の

侍従 母は

梅のうよ六条院より父の使を

いふとりの人

童宮

同

は二人は榮下よ朱雀院沙願の

こあよ美蔵采女い

宮沙方 母は

父まうせめては母をうとて

大助このもふすは

くうのこをうひい

四宮 母は

秋風樂

人



師官

ひらふ六多虎の三橋を...のきりてまよふ

八宮

母大臣女

宮治よりぬり...橋のきりて...優婆塞のまより

総角大臣

母大臣女

中宮

母大臣女

あけまれば...二多虎...三君

三君

母常陸の今の小宮

式部卿

あけまれば...小野より

東屋巻...三つり...侍従

侍従

宮君

母大臣女

あけまれば...後明の二平

冷泉院

母大臣女

あけまれば...高即位

一宮

母盤黒大臣女

あけまれば...行門

女一宮

母致仕大臣女

あけまれば...



女二宮 母二宮より  
竹川よじりぬれぬれ一丈のちり  
一尺宮 母朱雀院より  
女二宮 一尺宮より

女二宮

前舟院

あつひよかたぬれいづふ小庭ぬこまご故  
院のいぬよしりてちりせぬ女二宮より

先帝

式部卿

ふしめいきいしちこまじかきかき  
やうの

薄雲女院

名後

桐葉より山へいりぬてなつくとまきいぬ  
紅葉かろよこまのいぬ女二宮より  
よたら柳よかきりぬれぬれいづこし  
木上天白よりすくすくいづぬれぬれ  
ふしめいすすの春よかきりぬれぬれ

源氏文 母文家

朱雀院よりまの山時よりいづぬれぬれ  
女二宮よりいづぬれぬれいづぬれぬれ  
いづぬれぬれいづぬれぬれいづぬれぬれ

源中代言

南よ方言結じしえくよちる女院より  
双紙よせぬ一人よぬのちよちぬれぬれ  
いづぬれぬれ



若君

朱春院沙加丸試玉の日皇慶章

まじい一人

中将

侍従

氏部大補

こ上之人いづれもなき人のよのつらみ  
しつ父のともじりて人よまじり一人

繁黒大将室女

人ねよいりの灰けし人

忠上

母按察大判言女

十らりのの時源氏君しりてりゆあけ

冷泉院

女御母日繁黒山方

きよ筆をゆりぬはなかれこま

し女よ入のいづつりて中君といり  
これをも忠上りいりてりやを

常陸宮

阿国梨

源氏の清八道はゆりてかさいいも  
うとのありていりてありていりし人

蓬生君

すらつじ花の春よ源氏君よあひも

きよし東院よりくみこま

行政大臣

相魚よあひいりて源氏君か冠せし  
こころのきよし致仕りてりてりてり大臣



そて扱政一様とて之の正りよとせ  
こまき

### 致仕太政大臣母三三三

こりつりよ死入から常本を朝中のお家  
かろよ正四位下次より宰相中のお家つ  
しは権中助きうす言は権大納言を  
大納言を言とし女よ心大納言の  
よ太政大臣も常本下よ治はの表はれ  
つり始る女はくし自云奉りし

### 左中弁

お家よ山(源氏)のれじりよさつりし  
人花の事よ中弁の事とつりわひと  
いづもいづ人もくし夕負巻の死弁  
とこの人よ

### 藤大納言

### 春宮左史

は三人の源氏三系よ(ま)り始りし時  
仕のせよいしつわ(ま)り始りし人  
外服の君をありし女よ治はれと  
こゆりし人この事よ(ま)り始りし  
こまきつりし(ま)り始りし

### 葵上

お家の事よ夕霧君(ま)り始りし  
お家の事よ夕霧君(ま)り始りし

### 柏木権大納言

お家の事よ夕霧君(ま)り始りし  
お家の事よ夕霧君(ま)り始りし  
お家の事よ夕霧君(ま)り始りし  
お家の事よ夕霧君(ま)り始りし  
お家の事よ夕霧君(ま)り始りし  
お家の事よ夕霧君(ま)り始りし  
お家の事よ夕霧君(ま)り始りし  
お家の事よ夕霧君(ま)り始りし  
お家の事よ夕霧君(ま)り始りし  
お家の事よ夕霧君(ま)り始りし

### 卯梅右大臣母日上



いづれも童にて顔やまのまけり  
たゞこころひい人なつて一よえ  
帳初子  
よ并かゆの葉とよ奇日下よ  
な人并栢  
あよち初こころありし時一  
よまきの  
本しおのり人給志よ  
冷泉流  
しり  
とる竹ゆよる言あり  
あけた  
客に  
のこしよまらりし  
あち初言しけ人  
まらし  
宿よちんよとりて栢  
茶よ初こころつて  
ま

人更

紅梅の童いそきつま  
いこのま  
申しよひい人

簾景殿女侍

紅梅 春ま  
いり初

中君

むらり

左出づ緒

やこまよあ侍位とい  
つらげ人よ

藤宰相

あふ葉下よ  
喧長茶のつこ  
人  
いこ  
之  
夕暮のお  
の  
六  
屋上  
ま  
か  
ひ  
ち  
あ  
ゆ  
し  
才  
三  
夜  
ま  
ひ  
い  
人  
を  
又  
す  
げ  
し  
六  
多  
流  
ま  
ま  
い  
り  
て  
冷  
泉  
流  
ま  
か  
り  
し  
し  
け  
人  
よ

歌中將

花人かお

い  
て  
あ  
り  
し  
の  
冬  
よ  
冬  
暮  
れ  
を  
ま  
ま  
な  
し  
し  
時  
あ  
ひ  
ら  
か  
る  
と  
し  
し  
今



とりのぬきといつり人又露かちの一本  
あよかしのぬきとてはけのぬきん父  
おとあふれと思ふと出るといふこと  
こ上し女よかぬきとてはけ侍従とて侍し  
もあふれとて思ふと出るといふこと  
とげんぬき人し

### 八節 若

まはねは踏平此こまき童にてあつり  
人あつりまはねは行幸上願日思ふ  
ししは若らふへし

### 玉鬘芳尚侍 母ヲ顔上

四の年夕白の上女めのとていづくて露  
一とまりとて入とてむつたれ奉よ京のり  
蘭は尚侍平ふ本とてらよひけとて  
少とてらよひけ

### 弘徽殿女御 母月栞本

ふゆつとてま十二とてゆふとて  
夕勢大臣室 母栞察大臣言れこの言  
や弁れりもとてくらすふひ人

### 近江君

母たれもくまのりいそ人

### 二条太政大臣

朱雀院沙母とては親父とてあはを  
ゆふよとて大臣とてうとてらふとてあ

### 藤人御言

### 顔辭





いふよの白知白はぬかりと涌

藤景殿女侍

朱在院の位の時女侍のこころいん

四位が侍

父おと友のえじ志願し行り源氏  
これじつよまのりて花うさその也  
まじくもつる人

左中弁

い三人源氏おりり月夜のせき志願  
うりくそおの陣の車う人さうけて  
まじくし時弘徽殿よりか給人のこころ  
まじくし又まじくまじく中おまのすけ

あいつつもの人々も

弘徽殿大指

朱在院の沙母あつひは望みねを  
はわらうりままよなる

管師ま小方

花のえんれ巻なる

致仕大臣室

この君ときこころ

五君

花のえんれ巻なる

朧月夜尚侍

あつひは朱在院よりりそえんれ



般ときこの也林の二方よ尚侍より  
は厚よわりの如六の聲より

右大臣

みかたよりきたるはよいつちそのたを  
この人より

女侍

冷泉院六位の時れ女侍ははるかにあ

左大臣

梅枝のなをよりあの上のこの人より

大藏卿

修理左

ピニア業りのいんが腹ふはあふ

藤原女侍

と上ままの直時よりさうりゆ。  
明石中よりさうれはさ女にまうり  
生にてもうりさうりゆ一若やあて  
又梅えよ藤原景敏ときこし三君  
この人より

左大臣

竹はれはるるはとさう



女

夕霧りの世に  
天子幸相中ねん人  
こまこまこま  
時あひくまぬき

石大臣

今上の沙羅文明名一石大臣と云

長井黒人政大臣

こころよ石大臣の  
榮とす方々の  
下よ石大臣にして  
長行を請ふ御帝  
此のうらみ候し始  
に政大臣と云  
竹河よ人と云り

頭中将

源氏人なりと云  
可高侍のついで  
おの腕しそ志  
ふれもそつと  
まらん

兼香殿女沖

朱雀院の女沖  
今上の母なりと云  
り

藤中納言

女式と云ま  
女一  
ま  
あふねとナリ  
りそ殿上  
一はと云り  
は正月に  
まの尚侍の  
一はと云り  
一人  
なすよ  
おまの  
日と云  
ひと云

次郎君

母が  
まら  
ら  
は  
り  
そ  
母  
の  
ま  
と  
云  
る  
こ  
ろ  
の  
ま  
と  
云  
る  
女



右宮出陣 女御監房上

右宮下よ女御の時さきのうてふらぬまに  
朱右院少将の日記さきより舞一介  
はより出陣のときあつたよ右宮出陣と  
此も出陣のときあつたよ右宮出陣の日記  
まひをせしは人さき

右大臣 女御

三人じろの右大臣院よりつれをまつら  
れし時さきより舞又朱右院少将の  
試定の日記さきより日記さきより  
竹はし右大臣女御さきより舞右大臣

頭中 女御

右大臣女御さきより舞  
志又右大臣女御さきより舞

右大臣の日記さきより舞の日記さきより舞  
さきより舞の日記さきより舞の日記さきより舞  
さきより舞の日記さきより舞の日記さきより舞  
さきより舞の日記さきより舞の日記さきより舞

女御 女御監房 尚侍

竹はし女御の日記さきより舞の日記さきより舞  
あま室女女御の日記さきより舞の日記さきより舞  
あま室女女御の日記さきより舞の日記さきより舞

尚侍 女御

竹はし女御の日記さきより舞の日記さきより舞  
あま室女女御の日記さきより舞の日記さきより舞

大后 六条沙比呂



十のあてに花傍へさうり秋好申まじり  
かりすのうそまよおちれば三十三にんじき  
のそちまようして伊勢みくりにゆく  
——のりりそりるくもあはれ

大信

女侍

宇治の八雲の沙母

大信

宇治ま小方

いめ君二人をせぬまにかれゆく橋  
あはれ

誰ともなくと

常陸介小方

宇治まの小方あはれまに申あはれと  
てまよふまにいふ小方せねて後  
まおる君をうたがり後よひまらさく  
てまよふまにいふあはれ

大信

入道播磨守

近來中あまりける辞して播磨守  
つらば國としてしらぬあはれとあはれ  
まよふまにいふあはれとあはれ  
明石上中替れまよひまらさく



松尾よは海とくまれて人井よすかん  
し女ようき家よわたりて冬のつと  
まゝに

梅察大納言

雪村院律師

源氏房のあまはは又よまゝ  
一也柳よまゝ

桐葉の文衣

源氏の房はしとせまゝそ三年と  
しよまゝのわさりの限とてつと  
時筆とせつけるより(野よら  
秋三位成とらる

梅察大納言

い上母 母小山僧部妹也

梅察大納言

五節君

し女よき姫よまゝらそやそまゝ  
まゝに

人将

政ちねといつりあゝまゝ

友近がね

いづらのまげ



権中納言

右衛門佐

右衛門佐

源氏中川のあふんだらの時をいん  
わりの小庭いもこのおとこはうそ  
ひらへふり宮庭よのりうつせの  
庭の中

宣掾君

父の中納言うそは後伊豫介の事  
ころ又常陸よふりてふりこま  
うそてふり同屋よ京へのりては  
冬よすけよおきてはよんよふりて  
二条院の東院よ

右衛門佐

女 母小野丘

中あふり人のあふりてふりて  
おふりて

参議

明石乳母 女院宣旨

源氏あふりてふりてふりて  
はの姫宮よふりてふりて

三位中将

夕顔上

源氏のかゝる人かふりてふりて  
ふりてふりてふりてふりてふりて  
源氏あふりてふりてふりて  
ふりてふりてふりてふりて



宰相

宇治君

いづれも君は女房六の多岐のすし  
ゆしはくのももろくく人作はく  
あま平らむかけしもく人作

衆議友原惟光

くしめ民がく病くもくもあまの  
かきん ちまふまけけり梅枝は宰相

共出尉

幸いて後よとほるは道いもくあ  
節よ夕暮れ君の又つりし始しは

梅うえよと共出尉はくしんじうま  
ま黒れりしてさうりし人

藤典侍

の節舞作夕暮れ君の里人  
はちまありしゆ分のまけもあ

山何国梨

唯光のあにとつらりしまきり

か好命婦

つらりの巻よま

冬河守あま

夕のゆめを感后のつらりしあ



右膳磨守

源義清

若き時より花人としてより活かす  
とくめをたつて細肩作し女  
右中弁として遊守と為す

五節

し女巻の内みだてさつりしやん  
さつめりしや

左中弁

守はまのし方ぬしにさつりしや  
弁庄母しと母の乳母

女三まの侍従のめれよりいり  
よじりのきりきりし人ぬく  
しりしひしん

伊豫介

くしりの伊とよさり常陸みたりて  
写るよのりり白巻よさぬ

紀伊守

源氏ゆかたの中門の家ありし  
しは内さしけりみさありとくきよ

右近将監

源氏らゆて妙院のつ襷よつさつり  
ししりし多きりし人こりし  
海よししきりしりぬよのさ







瓶前守

らのぼくして次へんらり一人

五節

源氏ありははく一人はまらして次  
のまらよのりつ又の巻くともはま  
よまつれはつらとある

太宰の歌

夕るめうしはのよのま

巻後介

父をせし後し巻かるはくそのつら  
うまはへまらはつらよのまら  
はくそのまら

次節

三節

は二人ははく  
ものり守

楊名介事

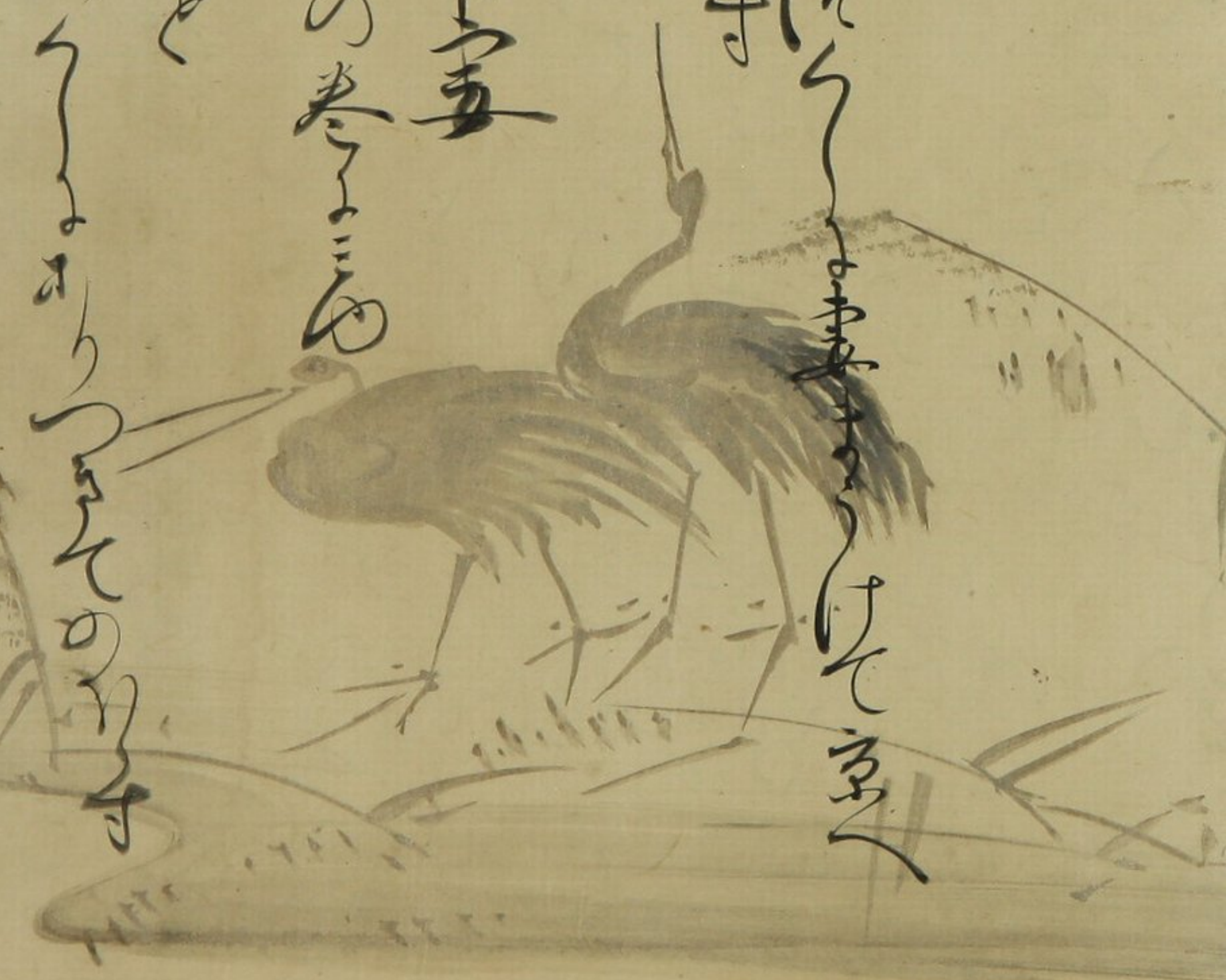
夕るめ巻くま

姉弟

はつらつらまらつらそのまら

兵部君

はつらつらまらつらそのまら  
はつらつらまらつらそのまら





●  
老部大補

いこひとけりともいり

大補命母 母はあつ乳母

丁もつじの言れす治也よ

まはる人

相葉

後涼敷衣

鞠負命母

左大弁

夜無海老

月侍

第本

たす

たす

相葉衣衣母

内侍すけ

曲侍

あつめりき  
をいり  
いん  
のり

人花御

命母

有或魚

大御



たふらひ安 小松女

友成 水雲

中督 同上

空懸

氏部 の おり

夕顔

大武 乳母 惟光母

楊右介

右近 夕顔上安

夕顔 上 乳母

侍 る 夕雲の父

中代言 夕雲

中侍 君 夕雲

一平 の 物の おり

春河守

中侍 君 夕雲

惟光 乳母の 父の 乳母

花人 の 父

文章侍士

若菜

山 の のり

明石 上 母 夕雲

いね

小山 僧 乳母の 弟 子

弁 あつ くの おれ とき 夕雲

若 く さま 小 方 夕雲

末摘花

大武 乳母

小山 僧 乳母の 弟 子

明石 上 母 夕雲

いね

小山 僧 乳母の 弟 子

弁 あつ くの おれ とき 夕雲

若 く さま 小 方 夕雲

末摘花

大武 乳母



共戸人補妻のまごめ  
夫福のめれこ

少院

肥後宗女

紅葉頌

参議左近将

左近将

令妯のまごめ

中務君同上

大公

源典侍

中務妻上のまごめ  
侍のまごめ  
近令のまごめ

参議左近将のまごめ

兼香殿のまごめ

中納言君のまごめ

中納言乳女

一院

修理太夫

花真列人

葵

齐院のまごめ

源氏内侍のまごめ

宰相君のまごめ

あてきき妻上のまごめ

中納言君のまごめ

中務妻上のまごめ  
侍のまごめ  
近令のまごめ

参議左近将のまごめ

兼香殿のまごめ

中納言君のまごめ

中納言乳女

一院

修理太夫

花真列人

葵

齐院のまごめ

源氏内侍のまごめ

宰相君のまごめ

あてきき妻上のまごめ

中納言君のまごめ

中納言君のまごめ  
辨のまごめ  
王命のまごめ

賢本



王命婦

かゆ言乳女

中將 極妙院女房

弁 あつめの女

式部 まさき

山の守

花散里

藤景殿女御

女 時方の禮茶あり

次磨

花散里上

宰相君乳女

藤景殿女御

中將 海成女

王命婦

中御言君 あつめの女

を祢のり同上

明石上母

明石

女おま

内侍の女

宮上継母

中御言君 あつめの女

中より女

友兼 あつめの女

横川僧 あつめの女

花散里上

女 時方の禮茶あり

中御言君 あつめの女

宮上継母

女御言乳女

中將 日

小山僧 あつめの女

十枝 あつめの女

大貳 あつめの女

春ま あつめの女

明石上母



花女里上

鷹標

夕霧ゆがきのめのと

中務なかつむ日上

中将なかつむら氏うぢ官女

花女里上

故院こゐん宣旨のたまひ

のたまひのめと母

藤景殿

橋津守

女メ列り首うぢ

弁ヒメ之内うち侍し

弁ヒメ之内うち侍し

蓬よもぎ生な

侍し從じ

弁ヒメ之内うち侍し

大貳おほに妻つま

大貳おほにとこのめ

大貳おほにのめとこのめ

末すえ橋はしのめとこのめ

花女里上

少すく将しょうのめとこのめ

閑屋いんや列り人ひと

繪え合あ

前まへ女メ列り首うぢ

修理しゆり宰相さうしやう入い口くち女メ

平内へいうち侍し從じ之の方かた

侍し從じ之の方かた

少すく将しょう命いのち女メ日ひ

大貳おほに典てん侍し方かた人ひと

中將なかつむら命いのち女メ日ひ

若わ求もと命いのち女メ日ひ

ささじじももらら繪え師し

左ひだり近ちか中なかつ將しょうのめとこのめ



松風

花女上

中將親王明彦

中納言

右大臣の俊

薄雲

明石上女

花女上

僧法泉院より

王命梅雨より

朝顔

極楽院宣旨

花女上

し女

極楽院宣旨

右中納言日

右大臣日

雲居房母松平大助の

小侍松平大助の

宰相若

雲居房

明石上女

民部卿

右大臣

右大臣

少将の

中納言法

僧法泉院より

王命梅雨より

源典侍の

民部卿の

右大臣の

右大臣の



右内侍母

志上冠母

玉鬘

右近

少貳妻

花女里

初子

中将

胡蝶

中文亮

今...  
の

常

大支監

瞿麦

近江君母

妙法寺別当

中代言君

舞火

右近

花女里

大支監

三条

花女里

右近

五節君

たしの君

弘徳及の君

右近大支



野分

宰相君 秋好の女

花友里

行幸

右大臣

蘭

辨 ぶらりの女

志友里

弁 ひ

中将 辨黒山方女

木工君 辨黒山方女

出上継母

内侍月

左馬助 ワカサカ家人

右大臣

中御言

宰相 多人 院

右近

梅枝

太貳 六条院よ香

花友里

内侍 の女の申すのミ

右大臣 はるあまよし

右近 子かき

雲居房のめれと

右大臣 夕露よ女の事

中務之 同上

藤衣葉

中務之

右近将監

灌佛沙導師

雲の房母



明石上母

多子のめれとて

あかり

花女里

掌の乳母

あかり

着菜上

朱雀院の女御乳母又衣

女三子乳母

女三人のめれとて

左中侍

石大將

山府直

中務

中御言君

御采前司

勝月夜  
の御言  
君のせし

中御言乳母

右大將

右中侍

花女里

明石上母

喜多宣旨典侍

小侍 女三子のめれとて  
薫之る女三子の時也  
梅作

同下

黒上継母

中務君

花女里

小侍 女三

明石屋

僧都 山

一条沙懸雨 母

侍従乳母 女三子のめれと  
小侍の母



柏木乳母 侍臣の乳

弁院

梅察君 七三三の君

源中将

柏木

小侍従

葛城元行者

柏木乳母

中々人吏

一條沙息所

かお君 一三三の君

横笛

一條沙息所

かお君 一三三の君

夕三三の君 七三三の君

鈴虫

女三三の君 七三三の君

式部大納

右三三の君

夕霧

一條沙息所

律師

かお君 一三三の君

大吏 石田のせうり

大吏のめれと

大和守 一三三の君

友近

花散里

幻



中池言君

花紋里

仏教の導師

紅梅

梅察大池言故小方

竹川

多子の君

中乃の君

橋本

阿園梨

かゝる生れあつと母君

推本

阿園梨

徳用

阿園梨

早蕨

阿園梨

壽

上野

僧都

中将君

僧の作りの経佛は

句ま別人

あし

小侍道三

方近将監の使

中ふん丈

多子の君 中ふん丈

石京丈

梅察君 壽の里人



河内梨

かゆ 中名の家

東屋

源の細言

たふ

右近 たふの

平重輝 中名

侍従 浮舟の家

浮舟

大膳君

たふの君

中名 中名

權守

浮舟君 たふ

かゆ 中名

中名 中名

かゆ君

大内記道宣 かゆの

右衛門権守時方 かゆの

右近 浮舟の家

大内病仲信 董の家

侍従君 時方

浮舟 たふ

右近 たふ

右近 たふ

右近 たふ

しん



蜻蛉

右近 淳

時方

淳舟乳母

淳舟のここの人徳の人徳のふらぬのり

仲信

小室相 一房まめ原 薫の早人

大内言若 一房まめ原

言氏原のまめ原

中将君 一房まめ原

淳舟乳母 淳舟のここの人徳の人徳のふらぬのり

淳舟のここの人徳の人徳のふらぬのり

淳舟のここの人徳の人徳のふらぬのり

淳舟のここの人徳の人徳のふらぬのり

淳舟のここの人徳の人徳のふらぬのり

淳舟のここの人徳の人徳のふらぬのり

平明

横の僧の

小野大庄 信助

一降沙息而

右近 淳

二りま

中将 小野庄のじ

右中 川言 中野庄のじ

山府

室ね君 一房ま

同僧初弟子

小野大庄 信助

かお庄

侍従

これもの

淳舟のここの人徳の人徳のふらぬのり

淳舟のここの人徳の人徳のふらぬのり

淳舟のここの人徳の人徳のふらぬのり

淳舟のここの人徳の人徳のふらぬのり



常陸長守（長守）

宇治律師

夢浮橋

後川僧坊

小野大左

小野左

紀伊守

伴持物語系畧

延暦三年系良より延和元年  
次弟小東部と首尾せしむる

九十一代

桓武天皇

九十二

平城天皇

善長御門

九十三

嵯峨天皇

九十四

仁明天皇

九十五

淳和天皇

昌徳院下

九十六

文德天皇





純子内親王

萬子内親王

桂子内親王

仲野内親王

高津内親王

賀湯内親王

伊豆内親王

阿保親王

行平

仲平

守平

業平

廣行僧都

初草

母伊豆内親王

女子

貞教御子母

光孝天皇 孝八

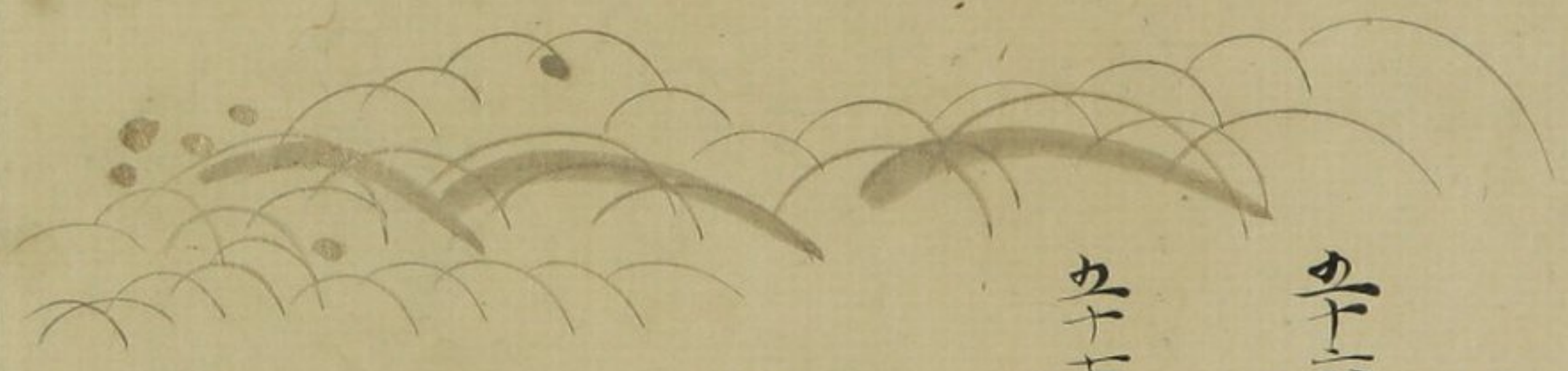
惟高親王 号小野宮十  
母純子

清和天皇 孝六  
御母  
母行平

陽成天皇 孝七  
御母

貞教親王 母行平

行平母宮 母行平





名虎

有子

女子 凡子行

静子

惟高の山女なり

藤氏因院左大臣鎌足之世孫也

冬嗣

長良

國經

大弼因院大納言上在  
延喜云より八兄なり

良房

忠仁の孫政大臣

二条后

清和天皇の女御清和  
九年の四月に在り

良相

西三子右大臣

基經

飛川のおとこ子實天  
長良忠仁の孫なり

深敵后

文徳の后清和天皇の母  
也深二条の后といふなり

孝行

多賀女

文徳女御也





